



道面尚久医師

ぼうこうの全摘出が最新鋭のロボットによる手術に変わりつつある。山梨県立中央病院は10月から導入。従来から行われてきた開腹手術に比べて手術中の出血

食い込んでいると、部分摘出では再発リスクが高く、根治を目的に全摘出となるケースがある。

手術はぼうこうの摘出のほか、尿の出口を腹部に設ける作業がある。ぼうこう

と腎臓を結ぶ2本の尿管を、切除した小腸の一部に結びつけた上で腹部から出す。小腸を用いるのは細い尿管では目詰まりを起こす可能性があるためだ。同病院が10月から手術で

に開腹してきた。ダウインチは、ぼうこうを取り出すために必要な傷口（へその横3〜4センチ）と、アームに取り付けた医療器具などを入れる傷口5カ所（腹部周辺に各1センチ）となる。大きく

## ぼうこう摘出口ロボット活用

# 傷小さく出血、痛み軽減

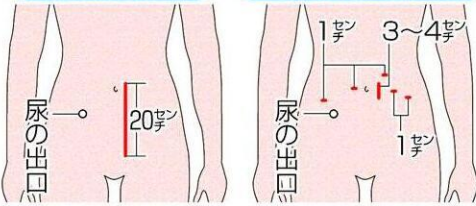
量が減少し、術後の痛みも軽減されるといふ。

ぼうこうがんは、ぼうこうの壁の浅い部分にある場合、尿道から内視鏡を入れて切除する。深い位置まで

### ぼうこうがんの全摘出手術

開腹による傷口

ダウインチによる傷口



用いているのは医療支援ロボット「ダウインチ」。4本のアームがあり、つかんだり引っぱったりする「鉗子」や電気メス、カメラが取り付けられている。手術中、医師は患者と直接向き合うことはない。ダウインチの横に設けられた操縦席に座り、モニターを見ながらアームを操作する。

従来の手術は、腹部の上部付近まで20センチほどの縦

な傷口がないため、術後に感じる痛みが抑えられ、手術翌日には自力で歩ける人も多い。傷痕も目立ちにくくなる。

手術中の出血が多ければ合併症の危険性が増すが、ダウインチは繊細な動きで細かな血管でも止血できる。傷口が小さいので腹部に炭酸ガスを入れて膨らませることができ、高圧にすることで出血を抑える効果もできる。ダウインチの活用はさらに広がっていくだろう。■第2、4木曜日に掲載します